

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年10月8日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 7名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870103490
事業所名	グループホーム すみれの園
(ユニット名)	梅干ユニット
記入者(管理者)	
氏名	渡部 大介
自己評価作成日	令和元年9月1日

<p>【事業所理念】 私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 【前回問題点・課題】 資格取得率が低く、様々な研修や資格取得に向けスタッフ一人ひとりがスキルアップ、キャリアアップできるように資質の向上を目指したい。 ・研修を受けやすくする為のシフト調整。 ・資格取得することでのメリットの明確化。 ・各種研修の費用補助 【結果】 外部研修への参加は増えないが、資格取得に向けての初任者研修・実務者研修及び介護福祉士受験者は、3名いた。また、認知症介護実践者研修の受講者も毎回のように申込1名の受講ができた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所内は写真や飾り物などが多く飾られ、利用者同士や職員と共に見ながら楽しい会話ができる良い環境となっている。きちんと整理整頓され清掃も行き届き清潔感が感じられるほか、玄関やリビングには季節の花を飾り、利用者や面会者がゆっくり居心地良く過ごせるようになっている。前回の外部評価以降は各種研修や各種資格取得に関する支援にも力を入れるなど、職員のスキルアップに取り組んでおり、利用者本位のケアを目指して日々の業務に励んでいる。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者の意向を日常会話の中で確認し、希望に沿えるようにしている。	○	/	◎	利用者や家族から情報を収集し、独自の基本情報、日常生活動作の自立度、ケアプランに関わる意向などを聞き取っている。病院から退院後に入居する利用者の場合は、看護要約なども加えて利用者のことを把握している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	利用者の表情や態度を良く見てご本人の気持ちを理解するようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族や親戚の方が来所時に話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の行動や言葉を記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者の思いを見落とさないよう複数のスタッフで話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時にこれまでの生活を把握し入居後も会話を通じて確認している。	/	/	○	入居時に、利用者や家族から得られた情報は基本情報シートに書き加えている。状況に変化があった時には基本情報に関する各種のシートを更新している。得られた情報は日々ショートミーティングで情報交換し、日報にも記入して情報伝達している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の中で動きや会話を通じて現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	入居者の態度や会話等により安心、不安の場を把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	要因について観察や話し合いで把握するようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	毎日の様子や変化や流れを把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の必要としていることをスタッフや家族等とも話し合っている。	/	/	◎	利用者や家族の意見を聞きながら月1回のユニット会議で検討している。当日参加できない職員は、事前に意見を伝えている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ミーティング等でその方にあった支援方法を話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題を明確にしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	会話や表情により本人の思う暮らし方が出来るよう努めている。	/	/	/	介護計画は利用者や家族の意向を聞き取った上で、担当職員と計画作成担当者が一緒になって検討して作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族の意向をスタッフ間で共有し話し合い作成している。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	写真やなじみのものを利用して過ごしていただいている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の方や地域の方たちと協働できるような行事等の声かけを行なっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画は毎日出来ているかチェック記録を行いスタッフで共有している	/	/	◎	職員は利用者一人ひとりの介護計画を把握・理解し共有している。日々のケアの実践はケアプラン実践チェック表を用いて記録し、ケアの実践中に得られた利用者の言葉や表情などは、日報などに個別に記録しているが、職員の気づき等の記録が不十分なため、利用者個別の記録を徹底し、職員間で情報共有に努めて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月ひと月の結果記録を確認しスタッフ間で話し合い変更が必要な場合は作成しなおしている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	支援内容は個別に記録している。言葉やしぐさ等細かく記入している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	×	職員の気づきや工夫を個別に記録していない	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	毎月評価を行い3ヶ月毎、若しくは必要な際に見直している。	/	/	◎	介護計画は3か月ごとに、担当職員と計画作成担当者が見直している。毎月利用者の状態を確認し、ユニット会議で話し合っており、状況に変化が起きた場合は、新しい介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態の変化に応じて本人、家族の意向を伺い計画を作り直している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎日のミーティング、毎月の会議げ話し合っている。	/	/	◎	月1回のユニット会議や毎日のショートミーティングにおいて職員同士で話し合いをしている。参加できない職員には会議記録を活用して情報共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	自由に意見ができる会議になっている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出来る限り多くの職種、職員が参加できるようにしているが、休日や勤務時間により参加できない場合もある。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	記録をとり後日全員が目を通すようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	スタッフの交代時に口頭で申し送りを行い重要な事項はノートを活用し押印確認するようにしている。	/	/	◎	申し送りや連絡ノートで伝達し、確認後に押印している。さらに、口頭でも伝えることで漏れをなくすよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りやノートを活用している。また、家族とのやり取りも記録し確認するようにしている。	◎	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	コミュニケーションを多く取る事で希望をかなえるようにしている。	/	/	/	散歩等外出したい場所やおやつ時の飲み物のほか、トランプや小物作り、塗り絵などを選んで行ってもらっている。体操や小物づくりなどは職員と一緒に行動することで生き生きとした言動を引き出している。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	判断が必要な場合は問いかけをしご本人に決定していただいている。	/	/	/		◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者との会話の中で働きかけを行なっている。	/	/	/		/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	食事、入浴はある程度決まった時間で行なうが、他は本人のペースに合わせている。	/	/	/		/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔で話しかけるように心がけており利用者も穏やかな表情をされていると感じる。	/	/	/		/	◎
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	会話の少ない利用者も表情を読み取りながら支援している。	/	/	/		/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	内部・外部の研修に参加し意識して行動している。	/	○	○	◎	職員は、人権や尊厳について研修で学んでおり、常に意識して業務に励んでいる。トイレの声かけは、「何か困っていませんか」などとプライドを傷つけない言葉で誘導し、排泄時に汚れた時などは周囲にわからないよう交換している居室に入る際は、ノックなどをして必ず利用者の許可を得るようにしている。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	さりげなく声かけするようにしている。また、耳の遠い方には、筆談で行なっている。	/	/	/	/		○
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	利用者のプライバシーを大切に介助している。	/	/	/	/		/
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室訪問時は必ずノックをし、不在時に訪室する際は、本人の了承を得て訪室するようにしている。	/	/	/	/		○
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し遵守している。	/	/	/	/		/
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者とのコミュニケーションも良好に図れておりお互いが感謝しあいながら共同している	/	/	/	/	利用者同士のトラブルに発展しないよう、利用者の性格を考慮し、言動を観察して席の配置の工夫や普段の活動における手伝いなどを依頼している。利用者同士で洗濯物たたみをしたり、お好み焼きやホットケーキ作りなどを行ったりしている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の関係性も良好にあると感じている。お互いが気にかける関係性を構築できている。	/	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者の性格や関係性を考慮し対応している。	/	/	/	/		◎
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルがあった場合にはスタッフが仲裁に入り話を聞くようにしている。	/	/	/	/		/

愛媛県グループホームすみれの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	見学時や面談、面会時等に本人や家族から話を聞くようにしている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	知人、友人がいるかたであれば対応出来るようにしている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	家族の方ともコミュニケーションがとれており気持ちよく来所いただいている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外気浴や季節や時候に合わせた外出を定期的に行なっている。また、入居者とのコミュニケーションを通じて希望を伺うようにしている。	○	○	○	重度の利用者を含め、散歩や買い物等の要望にも応じるなど、臨機応変に外出支援をしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外部からの協力は、得られていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	状態に応じてそれぞれ外出できるようサポートしている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	家族に協力を仰ぐことはあるが、地域の方の協力依頼したことがなかった。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	毎日ショートミーティングなどで意見を出し合っている。				日常生活動作の中で利用者のできることをしっかりと把握し、ショートミーティングで話し合っ実践しており、職員は毎日利用者が運動や口腔体操ができるよう見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎朝の手足の運動や脳トレ、口腔体操を日課として実施している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	洗濯物干し、たみなど利用者をお願いし思うようになつたんでいただいている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人や家族に話を聞きプランニングしている。				掃除や洗濯、買い物などは、利用者と職員が一緒に行っており、その中で利用者一人ひとりに応じた役割を担ってもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	それぞれの得意なこと好きなことなどで他の利用者に教えてくださったりそれぞれの役割を継続できるように努めている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	見学することはあっても、参加していない。				

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	更衣の際等に選択できるように提案している。				毎日更衣を行い、汚れがあれば利用者のプライドに配慮しながらすぐに交換している。食事の場面においては、エプロン使用者は別テーブルで介助するなどの工夫をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	昔から使っているものを持参していただいたり訪問理容などの際には、希望を伝えてもらうようにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	可能な範囲で希望に沿えるようアドバイスしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時には、季節に合ったものを本人と選択				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	汚れや、乱れがあればすぐに直すようにしているが配慮が足りない場面がある。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問を活用している。希望店舗などがあれば、家族等と相談する。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	髪型は本人の意向を尊重しているが、麻痺や拘縮などがある方の服装は伸縮性のあるものを選んでしまっている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	楽しむ・好み・選択・生きる為に必要なことと理解している。				食事のメニューは、学校の給食の献立を参考にして献立のバランスに偏りがなく検討している。調理時には食材の大きさや柔らかさを工夫し、食べやすい食事を提供している。利用者の食べたいものや旬の野菜・果物を取り入れた献立にしている。利用者に応じた茶碗や箸、湯呑を準備して食べやすいよう配慮している。職員は食事介助や後片付けなどで食事を一緒に食べることは難しい場合が多いが、今後は職員の役割分担を検討するなど、利用者と一緒に食べることも検討して欲しい。職員は利用者により食事に興味を持ってもらうようメニューの説明を行うなど、重度の利用者を含め、いつも食事を心待ちにしている。利用者の栄養バランスについて、職員間で定期的に話し合い、バランスの取れた献立の作成に努めて欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	調理のサポートやテーブル拭き、準備など手伝っていただいている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	コロッケ作成の手伝いやホットプレートを使った調理を手伝ってもらっている。それらを通じて自信を持つことが出来ていると思う				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	面談時に必ず聞き取るようにしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	旬の食材や果物を取り入れ季節感を出している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの状態に合わせてその日に、その時に応じた形態で提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	△	軽くて持ちやすい食器等を提案している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	食事のサポートを実施しているが、入居者の状況から介助を優先する状態があるため、一緒に食事はできていない			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	今日のメニューなど声かけしながら介助している。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事の量や水分摂取量はひと目でわかるようにしている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	補食や好きなものを追加して提供するようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	アドバイスは受けていないが偏らないように配慮している。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	一日の終わりにはハイターなどで消毒し食べる直前に冷蔵庫から出している。				

愛媛県グループホームすみの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	重要性を理解し入居者の能力に応じた口腔ケアを行なっている。	/	/	/	歯みがきは利用者自身で行ってもらい、できないところを職員が介助して利用者の口腔内の状況を定期的に確認し、口腔内の汚れ等がないように清潔保持が継続できるよう努めている。また、訪問歯科を利用して利用者の口腔内の衛生に万全を期している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時にスタッフが声かけであったり実際に支援している際に把握するようにしている	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科協会にPOPをもらい活用している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	できるところは自分で行なっていたり、支援が必要な場所の介助を行っている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	必要な際に協力医療機関(歯科)と連携を図り対応している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	立ち上がり可能な利用者にはトイレで排泄が出来るよう支援している。	/	/	/	紙パンツと尿取りパッド使用者が多いが、排泄チェック表を活用して排泄のリズムを把握し、居室やリビングへの移動の時などを活用しながら、なるべくトイレで排泄してもらおう心がけている。病院退院後の利用者は紙おむつから紙パンツに改善する場合もあるなど、その時の状態に応じ職員間で一番良い支援方法を検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解して本人に合わせた排便コントロールを行なっている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を基に一人ひとりのパターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	状態に応じた排泄方法の選択を行なっている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	毎日のショートミーティングなどで意見を出し合い改善できるようにしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を確認して早めの声かけや誘導をおこなっている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	自立だった方がパットや紙パンツなどを使用するようになれば経緯なども家族に説明している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	時間帯に応じて使用するパットを分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分量や食事量、運動等で自然排便が出来るよう促している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	スケジュールどおりになりがちである。受診や外出などがあれば前日に入浴するなどの配慮をしている。	◎	/	◎	週2回入浴を基本としているが、体調に合わせて臨機応変に入浴日の変更にも対応している。リフト浴の機械もあり、重度の利用者でも入浴できるようになっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	一人ひとりに合った会話などをしながらリラックス出来るように心がけている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来るところは出来るように支援し出来ないところの手助けを行なっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いはせず穏やかな時に入浴できるようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴・清拭前には必ずバイタル測定を行い、入浴後は水分補給を行なっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り、介護記録の内容で把握している。				夜間は2時間ごとに訪室して利用者の睡眠状態を確認し、安心して眠ってもらうよう努めている。日中活動的に過ごしてもらい夜間のゆったりした睡眠に繋がるよう工夫している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼間に作業や運動などを行い昼寝時間を体調がよければ1時間程度にするなどの工夫を行っている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	夜眠れない入居者には就寝時間を遅くするなど工夫している。主治医にも適宜報告、相談している			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室は、全室個室で原則自室で休んでいただくようにしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば連絡をとっている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	本人の希望がなければスタッフから声かけなどはしない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば連絡するように支援している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	面会時に渡すようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話を使える利用者には家族の協力の下連絡を取り合ってもらっている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	現金所持されている方は少ないが金銭管理の大切さは理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	買い物に出かけているがスタッフがまとめて払っている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	おこなえていない				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金を所持している方は、ごく少数で買い物時などに自分で支払っている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	特に取り決めをしているわけでない。小口現金からの使用が多い				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	管理方法を説明し月に1度出納の確認もしていただいている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	追加での介護保険サービスの提案は、積極的に行なわないがニーズがマッチすれば社協のボランティアなどの提案や、地域の図書館など提案できるように調べている。	◎		○	家族の協力を得て法事や墓参りを実現するなど、多様なニーズ柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関に季節の花を置くようにしている。	◎	◎	◎	玄関にはウエルカムボードにお知らせなどが書かれているほか、季節の花も飾られて親しみやすい雰囲気になっている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共有部分は、家庭的な空間となっており季節にあった飾り付けを利用者と行なっている。	○	○	◎	共有の廊下には年間行われている様々な行事の写真が飾られ、見て回る利用者もいる。共有空間にはソファがあり、リビングで過ごす利用者は多い。掃除が行き届き清潔感が感じられる。リビングには季節の花を飾り、壁には利用者の手作りの作品を掲示してゆっくり落ち着いて過ごせるよう配慮している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	心地よく過ごしていただけるように環境整備を行なっている。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	キッチンがリビングに有り調理中の音や匂いを感じ取れるようになっている。	/	/	/		◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	相性で席を考えお互いが落ち着いて生活できるようにしている	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレの戸口は常に開めるようにしている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	イスやテレビ、慣れ親しんだ家具、家族の写真などを飾られている。	◎	/	◎	居室にはエアコンや電動ベッド、クローゼットが備わり、利用者自身の馴染みの物や家族の写真などが飾られるなど、居心地良く過ごせるようになっている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	それぞれの役割を持っていただいたり自分で出来ることは継続して行なえるようにし過剰な介護にならないように配慮している。	/	/	○	居室がわかりやすいよう入口にはネームプレートを飾るなど、利用者が安心して自立した生活が送れるよう配慮している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレにはどこからでもわかるように表示をつけ居室にも各入居者の名前や写真を貼っている。(家族等の許可は得ている)	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	リビングに新聞やそれぞれの文具を置き自分で出し入れして使えるようにしている。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	居室にはついておらず、ユニット入り口に鍵をかけなければいけないときにはスタッフで話し合いを行なっている。	◎	◎	○	職員は玄関などに鍵をかけることの弊害について理解しており、日中玄関などの出入口は施錠されておらず、自由に出入りできるようになっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ユニット入り口の鍵については、見学时、入居時に説明している。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	帰宅願望や落ち着きの無い方には、一緒に外へ出かけるなどの対応を行うようにし、極力鍵をかけなくて良い状態にしている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	新規入居時のアセスメントシートの確認、入居後の情報共有、受診等の結果を必ず確認、申し送るようになっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日のバイタル測定、身体面、精神面に気になることがあれば介護記録に記入し、申し送るようになっている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	かかりつけ医療機関が24時間対応のため急変時には報告、相談、指示対応するようになっている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	見学时、面談時に家族に希望の医療機関等の確認を行い入居後も継続して医療が受けられるように配慮している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	見学时に複数の医療機関を紹介し最終的に家族、本人が選択できるようにしている。医療機関が決まれば、家族の協力を得ながら入居後すぐに適切な医療が受けられるように連絡調整を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診内容を加味して早急に伝えるべきこと、面会時で可能な内容を判断し報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時は家族に任せきりにせず同行と検査、診察等の配慮、病棟への情報提供を行なうようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	カンファレンスの参加やMSWがいる場合には連絡を密に行い退院の目処や今後の対応について話し合っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	主治医への情報提供を看護職員がしっかり行なうようにしている。不在時にも行なう体制は整えている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	状態に異常、変化があったときは、看護職員に報告、相談し状態に応じてかかりつけ医療機関等に相談し受診に繋げている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	日中夜間、休日とかかりつけ医療機関と連絡相談できる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝のバイタルチェックや日常の生活で異常のある時は、早期対応行なっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	処方された薬の説明書をファイルにまとめ職員全員が把握できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	利用者に薬を出す際には他の職員と再確認している。飲み忘れの無いよう薬セット箱を用意し次の薬セットする際にわかるようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬の変更があった日付をわかるように記載し、その日からの状態変化を細かく記載し症状によってはすぐに主治医へ連絡するようになっている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬変更の内容によっては家族へも連絡し副作用の説明等も行なう。薬変更後の状態は特に細かく記載し、華族、医療機関への情報提供を行なっている。				

愛媛県グループホームすみれの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居契約時に重度化の指針を説明している。以後は状況によって再度説明を行なっている。	/	/	/	年1回看取りに関する研修会を行って知識を得ている。利用者の家族に対して年2回終末期の意向に関するアンケートを実施し、家族の思いの変化に対しても見落とすことがないように注意を払っている。看取りの時期には、家族や主治医などの関係者を交えて話し合い、対応方針を共有するなど、体制は万全に整っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	定期的に終末期のアンケートを行いその都度家族に見直していただきその旨を主治医へ報告するようにしている。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	状態変化があった際に急変時対応について話し合っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	出来ないことについては必ず説明を行い理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	三者で話し合いの場を設け検討や準備を行なっている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時に伺うようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	内部研修にも取り上げいつでもいつでも閲覧できるようにしている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	手順を記したファイルを保管し見れるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	運営推進会議の場等で、市、包括職員がその時期の流行や感染症について注意喚起して下さっている。またメール等での内容を周知するようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	医療機関やインターネットなどで情報収集し対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関先に消毒や張り紙を設置し感染予防の注意喚起を行なっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族との連携を図り共に本人を支えていく関係を続けている。				行事予定などを家族に送り、参加してもらっている。月1回手紙に利用者の生活の様子や体調のことを書き、家族に報告している。事業所の設備のことや職員の異動等について、家族に伝わっていないため、家族の理解が得られるよう報告方法などを検討して欲しい。家族が来所した際には積極的に声をかけ、話を聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	スタッフが明るくハキハキとした態度で接し取り組みの様子などを伝えている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	毎月1か月の様子を手紙で書いておりその中に行事予定なども記入している	○		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	手紙を送ることで近況を伝えている。疎遠のかたには、先方に確認を取った上でメールを使った定期外の手紙を送っている。		◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	来書された際にご家族に意見を聞くようにし話す機会を作っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	来所持に説明するようにしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	電話や手紙にて報告し協力を得られている。		x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事の参加を促し交流を図ろうとするもほとんど参加されない。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	面会時に説明している。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時に伺うようにしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	事前に契約の時間を設けて説明し、内容の変更の際も前もって説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族の意向に沿って退去支援を行なっている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明し初回請求の暫定金額も細かく明示している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で認知症について話したり、近隣住民で認知症のことで困っていることなどがあれば相談や窓口の紹介などを行うようにしている。	/	○	/	事業所として地域の清掃活動や運動会などの行事に参加し、回覧板も確認するなど、地域とは良い関係が築けている。運営推進会議には民生委員などの地域関係者の参加も得られ、利用者が地域と積極的に関わりながら暮らしていけるよう取り組んでいる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	回覧板の確認や町内行事の参加、日頃の挨拶など入居者と一緒に出来ている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の消防士の方や防災士、民生委員のかたを中心に協力支援を得られている。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近所の方がお花や不要になった介護用品の差し入れなどに来ていただいている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	いつも挨拶を欠かさずに行なっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近隣の方にボランティアや行事を行なっていただく機会を作っている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	サービスの利用の希望があれば支援している。(散髪・手話)	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	行事参加の声かけや利用者とスーパーやパン屋と一緒に行き関係を築いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族には事前に書面で開催要項を送っている近隣の方も予定を配慮し参加いただいている。	/	◎	△	運営推進会議は、利用者や地域の関係者、市の職員などが参加しているが、家族の参加が少なく発言もあまりないため、今後は参加したくなるような議題にするなど、家族の参加が増える取組みが望まれる。外部評価の取組み状況については、参加者に理解してもらえるよう報告している。会議で出された参加者からの意見や提案を事業所サービスのさらなる運営に活かしており、その取組み状況を会議で報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	活動状況・計画・予定の報告をしている。	/	/	/	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回提案、意見を伺い次回に取り組み状況を報告している。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	議題にあわせてメンバー、人数を考慮し日程についても調整している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	運営推進会議毎に前回の議事録を配布している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	近隣付き合いは推進会議や地域の行事に意識的に参加している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ユニット内に掲示しているが伝えることは行っていない。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	資格や経験年数、日々の業務姿勢などから内部研修予定を作成、また外部研修の具体的項目をあげて参加を促している。	/	/	/	身体拘束や感染症予防など、毎月何らかの研修を実施しており、代表者は職員のスキルアップには理解がある。半年に1回の人事考課制度を活用した面談を行ったり、ユニット長が日頃の悩みを聞くよう配慮したりするなど、職員が働きやすいストレスのない職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	入社3ヶ月で夜勤が一人で行なえるように育成している。また資格取得への助言を行なっている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	ユニット長から職員のモチベーションや勤務態度等を聞き取り3年後、5年後などの話をしている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	外部研修に参加することでの横のつながりや他事業所でのことを聞くことで刺激を受けてもらうことを考えている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	急な勤務変更なども気軽に対応することで、自分の時間も大切にもらっている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	年に2回内部研修を行い理解を深めている。	/	/	/	年2回内部研修を行い、職員はいずれかの機会に参加できるようにしている。身体拘束適正化委員会を年4回実施して検討を重ねるなど、職員は不適切なケアを発見した際の対応方法について理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	常に出来ている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	発生時の対応を研修を通して学び周知している。入浴介助時には、複数のスタッフで関わり全身チェックを通して不自然な状態がないかを確認している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	普段と違う様子が見えるようであれば勤務を変更するなどの提案を行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	3ヶ月に一度身体拘束適正化委員会、身体拘束の研修を年2回実施することで都度見直し、確認が出来ている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	3ヶ月に一度身体拘束適正化委員会、身体拘束の研修を年2回実施することで都度見直し、確認が出来ている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	原則身体拘束を行わないことを説明し要望があった際には、家族、職員と話し合うようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修を通して学んだり実際に活用されている方をモデルケースに話し合うことが出来ている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	見学時に本人や家族の状況を把握することで、各種制度の情報提供を行なっている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談内容を判断して家族の了承を得て包括支援センター等に事前相談を行い、家族等がその後相談に行きやすい状況を手助けしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	様子観察シートを掲示し急変時には、看護師から指示を受け対応している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	訓練を受けているが全ての職員ではない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットも記録し職員同士で話し合い情報を共有し再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々の生活の中で観察し事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が発生した場合にはマニュアルに沿って対応するようにしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	スタッフ間で連携協力しサービス向上に努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や普段の生活の中から話を聞くようにしている。	/	/	○	利用者の意見は入浴時や日々の会話の中で話を聞き、改善につなげる努力をしている。家族からは面会に来た時に話を聞いている。管理者と職員は何でも言い合える関係性が築けており、毎月ユニット会議では、利用者への関わり方や事業所の運営面や設備などについて話し合うようになっている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に意見箱を置き、家族や面会者へ要望等を聞けるようにしている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	状況に応じて各種窓口の情報提供を行なっている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ユニットで業務補佐をしたり食事を一緒にしたりしています。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	月に1回ユニット毎で会議を開催し支援内容だけでなく運営や設備について意見を出し合っている。	/	/	◎	

愛媛県グループホームすみれの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年2回実施している。				評価結果については運営推進会議で報告し、家族には事業所で閲覧できることを伝えている。今後は家族が事業所の運営面にも関心が持てるよう情報伝達ができる仕組みを構築し、モニターを依頼できるようになることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題の抽出を行いショートミーティング等で話し合っている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	運営推進会議で指摘いただいたことを改善できるようにしている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で報告している。	△	◎	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議で取り組みや結果報告をしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	火災・地震・風水害に対する訓練を行なっている。				様々な災害を想定した訓練を実施し、避難訓練では屋外のテラスまで避難している。事業所内には避難経路がわかりやすいよう写真入りで掲示されており、防災に関する意識は高いが、一部の家族の理解が得られていないため、今後は地域とも合同の避難訓練を実施するなど、家族も安心できるよう利用者の安全確保に万全を期すことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	月1回テーマを変えながらユニットで消防訓練を行なっている。年2回は施設全体で実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	避難経路は地図を作成して掲示し確認できる。備蓄飲料は常に賞味期限を確認している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	年に1度は消防署の立会い訓練を実施し指導してもらっている。地域の防災士にも参加いただいている。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	施設全体で災害訓練・消防訓練を行なう際には防災士にも声をかけている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	相談窓口としているが、積極的に地域へ還元していない。				地域活動には参加して相談できる体制を整え、地域包括支援センターでも相談できることを伝えているが、相談件数は増えていない。今後は事業所の相談支援をよりPRするなど、積極的な取組みが望まれる。地域の関係機関との協働のイベントの実施には至っていないため、今後は市や地域包括支援センターと連携して地域活動にも取り組み、地域のケア拠点として認識してもらえる事業所となることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議などで呼びかけている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	運営推進会議や夏祭りなどで開放している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	小学校の職場体験学習など依頼があれば積極的に応じている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	市や包括支援センター、町内会等からの案内については、極力参加するように努めている。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年10月8日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 7名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870103490
事業所名 (ユニット名)	グループホーム すみれの園 抹茶ユニット
記入者(管理者) 氏名	渡部 大介
自己評価作成日	令和元年9月1日

<p>【事業所理念】 私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切にし、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 【前回問題点・課題】 資格取得率が低く、様々な研修や資格取得に向けスタッフ一人ひとりがスキルアップ、キャリアアップできるように資質の向上を目指したい。 ・研修を受けやすくする為のシフト調整。 ・資格取得することでのメリットの明確化。 ・各種研修の費用補助 【結果】 外部研修への参加は増えないが、資格取得に向けての初任者研修・実務者研修及び介護福祉士受験者は、3名いた。また、認知症介護実践者研修の受講者も毎回の様に申込1名の受講ができた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所内は写真や飾り物などが多く飾られ、利用者同士や職員と共に見ながら楽しい会話ができる良い環境となっている。きちんと整理整頓され清掃も行き届き清潔感が感じられるほか、玄関やリビングには季節の花を飾り、利用者や面会者がゆっくり居心地良く過ごせるようになっている。前回の外部評価以降は各種研修や各種資格取得に関する支援にも力を入れるなど、職員のスキルアップに取り組んでおり、利用者本位のケアを目指して日々の業務に励んでいる。</p>
--	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	面談時、入所時ケアプラン作成時に本人・家族に聞き取るようにしている。	○	/	◎	利用者や家族から情報を収集し、独自の基本情報、日常生活動作の自立度、ケアプランに関わる意向などを聞き取っている。病院から退院後に入居する利用者の場合は、看護要約なども加えて利用者のことを把握している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	毎日の生活の中で表情等から汲み取るようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	職員の気付いたことを家族と共有し本人の思いについて話している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	会話の内容や感情等も記録に記載している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	思いを汲み取りにくい時には全職員で話し合うようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	面談時、入所時に生活歴や習慣を聞き取り希望を取り入れるようにしている。	/	/	○	入居時に、利用者や家族から得られた情報は基本情報シートに書き加えている。状況に変化があった時には基本情報に関する各種のシートを更新している。得られた情報は日々ショートミーティングで情報交換し、日報にも記入して情報伝達している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々のケアの中から職員間で共有しながら能力を活かしていただいている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	その都度感情の変化や言動を申し送り全職員で把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	要因が何かを話し合い関わり方を見直している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	それぞれの違いについて把握でき自由な過ごし方を大事にしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	生活の中で気付いた本人の求めることを家族・スタッフ間で共有しケアプランに取り入れるようにしている。	/	/	◎	利用者や家族の意見を聞きながら月1回のユニット会議で検討している。当日参加できない職員は、事前に意見を伝えている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	その人にとって一番大切なことを職員で把握するようにしている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	検討した内容を評価し課題を家族と共有している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	作成時に本人の意向を取り入れるようにしている。	/	/	/	介護計画は利用者や家族の意向を聞き取った上で、担当職員と計画作成担当者が一緒になって検討して作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の意向をもとに家族と相談し意見や情報を取り入れて作成している。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意思の疎通が困難な場合は家族の意見・意向を聞いている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	運営推進会議や行事参加を通じて交流を図っている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ユニット会議で検討した計画を毎日、生活支援チェック表で確認している。	/	/	◎	職員は利用者一人ひとりの介護計画を把握・理解し共有している。日々のケアの実践はケアプラン実践チェック表を用いて記録し、ケアの実践中に得られた利用者の言葉や表情などは、日報などに個別に記録しているが、職員の気づき等の記録が不十分なため、利用者個別の記録を徹底し、職員間で情報共有に努めて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	つきに1回職員間で評価し状況確認をしている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしの中での様子を記録し次の介護計画作成時の参考に来るようにしている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	気付いたこと・工夫したことを介護記録に記入している。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月後との見直しや、入院以外でも変化のあったときには見直している。	/	/	◎	介護計画は3か月ごとに、担当職員と計画作成担当者が見直している。毎月利用者の状態を確認し、ユニット会議で話し合っており、状況に変化が起きた場合は、新しい介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に1度は会議を開催しスタッフ同士で振り返っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化があった時職員で話し合い家族に新しい計画について話、作成している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎日のショートミーティングで話し合う。	/	/	◎	月1回のユニット会議や毎日のショートミーティングにおいて職員同士で話し合いをしている。参加できない職員には会議記録を活用して情報共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	気付いた時毎日のミーティングやユニット会議で話し合う。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出勤者が多い日を利用し、夜勤者には体調を優先して参加を促している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送りをし会議記録を確認出来るよう当日には作成し、全員に周知できるようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送り、会議記録を確認することで全員に周知できるようにしている。	/	/	◎	申し送りや連絡ノートで伝達し、確認後に押印している。さらに、口頭でも伝えることで漏れをなくすよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りにて情報を伝達し、より重要な内容は連絡ノートの他にも口頭で伝え連絡ノート確認した場合は、押印することで周知の確認をしている。	◎	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	散歩、買い物、庭の手入れなど意向に沿って実施している。	/	/	/	散歩等外出したい場所やおやつ時の飲み物のほか、トランプや小物作り、塗り絵などを選んで行ってもらっている。体操や小物づくりなどは職員と一緒にすることで生き生きとした言動を引き出している。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	その日のレクの内容やおやつメニューなどで、自己決定する機会を作っている。	/	/	/		◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	判断が困難な場合は声かけ誘導で、納得して暮らせるよう支援している。	/	/	/		/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	個々のペースに合わせて支援を行なっている。	/	/	/		/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	日常会話やレクの時間を利用して和やかな雰囲気作りを心がけている。	/	/	/		/	◎
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	言葉の表現にとらわれずジェスチャーや簡単な手話、表情を確認しながら支援している。	/	/	/		/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	そのひとらしさを理念に取り組んでいる。	/	/	/	職員は、人権や尊厳について研修で学んでおり、常に意識して業務に励んでいる。トイレの声かけは、「何か困っていませんか」などとプライドを傷つけない言葉で誘導し、排泄時に汚れた時などは周囲にわからないよう交換している居室に入る際は、ノックなどをして必ず利用者の許可を得るようにしている。		
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	一人ひとりに敬意を払いはり自尊心を傷つけないように声かけ行なっている。	/	/	/		○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	個々の希望に合わせた対応をおこないプライバシーにも配慮している。	/	/	/		/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室時は、ノックをし居室不在時には、本人に要件を伝え入室している。	/	/	/		/	○
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	利用者の個人情報は、社外では口外しないよう誓約書も含め徹底している。	/	/	/		/	/
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者が出来ることを共に探し、生活の中で役割を持っていただき生活されている。	/	/	/	利用者同士のトラブルに発展しないよう、利用者の性格を考慮し、言動を観察して席の配置の工夫や普段の活動における手伝いなどを依頼している。利用者同士で洗濯物たたみをしたり、お好み焼きやホットケーキ作りなどを行ったりしている。		
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	共同生活ということを理解していただき、他の入居者に何かあればサポートに動いている。	/	/	/		/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握しトラブルになる前に防いでいる。孤立してしまうことがないよう対応を行なっている。	/	/	/		/	◎
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが発生した場合には原因について話し合いトラブル解決に努めている。	/	/	/		/	/

愛媛県グループホームすみれの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	面談、入居時、入居後も本人家族への情報収集は行なっている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	面談、入居時、入居後も本人家族への情報収集は行なっている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面談、入居時、入居後も本人家族への情報収集は行ない入居後も交友関係を断ち切らないよう協力を仰いでいる。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居室でゆつくりと過ごせるようにしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	散歩、買い物、庭の手入れなど意向に沿って実施している。	○	○	○	重度の利用者を含め、散歩や買い物等の要望にも応じるなど、臨機応変に外出支援をしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	運営推進会議を通して近所の方と協力体制を整えている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	遠距離は困難だが庭や玄関先で過ごしている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族の協力はないが職員が外食やドライブに出かけている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	一人ひとりの状態に合わせた対応の仕方を話し合うようにしている。				日常生活動作の中で利用者のできることをしっかりと把握し、ショートミーティングで話し合っ実践しており、職員は毎日利用者が運動や口腔体操ができるよう見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活動作を基本に移動、食事、排泄行動が自分の力で行なえるよう見守り、支援を行なっている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できそうなことについてはケアプランの目標として毎日の実施の中で取り組むようにしている	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	毎日の生活の中で有する力を見出しその人に合った役割出番作りをしている。				掃除や洗濯、買い物などは、利用者と職員が一緒に行っており、その中で利用者一人ひとりに応じた役割を担ってもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	その日、その時のレベルに合わせて出来ることの役割作りをしている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域行事への参加はあるが、役割としての参加ではない。				

愛媛県グループホームすみのの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	着替えを準備する時や散髪の人に本人の意向を尊重し選択できるようにしている。				毎日更衣を行い、汚れがあれば利用者のプライドに配慮しながらすぐに交換している。食事の場面においては、エプロン使用者は別テーブルで介助するなどの工夫をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	髪型や衣類の好みは本人や家族の希望を聞いている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択肢を提案することで自己決定のサポートをしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	本人の好みを重視しつつ季節に合った衣類の洗濯が出来るようにしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声かけし整容している。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人や家族の意向に合わせて訪問理美容を活用したり家族の協力を得て馴染みの店に行けるようにしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人や家族の意向に合わせて訪問理美容を活用したり朝晩の更衣の支援を行なっている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	献立・調理、食べることの大切さを一連として理解している。				食事のメニューは、学校の給食の献立を参考にして献立のバランスに偏りがなく検討している。調理時には食材の大きさや柔らかさを工夫し、食べやすい食事を提供している。利用者の食べたいものや旬の野菜・果物を取り入れた献立にしている。利用者に応じた茶碗や箸、湯呑を準備して食べやすいよう配慮している。職員は食事介助や後片付けなどで食事を一緒に食べることは難しい場合が多いが、今後は職員の役割分担を検討するなど、利用者と食事を一緒に食べることも検討して欲しい。職員は利用者に、より食事に興味を持ってもらうようメニューの説明を行うなど、重度の利用者を含め、いつも食事を心待ちにしている。利用者の栄養バランスについて、職員間で定期的に話し合い、バランスの取れた献立の作成に努めて欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食べたいものの提案・後片付けには、参加していただいている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	課の中谷はケアプランに取り入れ実践していただいている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーは、面談時に必ず聞き取りを行なっている。好き嫌いについては、食事の様子などから程度を理解して対応している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の食材の活用や行事に応じた食事の提供を行なっている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの身体機能に合わせて、提供している。ミキサー食になる場合には彩にも留意して提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入居時に馴染みのショックを持ちみしていただいている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	食事介助や見守りの支援が必要な方が多く一緒に食事は出来ない。				
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わかるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	介助の際食事の内容を説明するようにしている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事摂取量、水分量はその都度記録に記載し把握している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事の形態や時間、回数を個々に合わせて工夫し1日のトータル量を満たすようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士のアドバイスは無いが、メニューに偏りが無いように配慮している。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理器具は1日1回消毒を行っている。野菜の鮮度や消費期限は、日付を記入し使い切るようにしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	室要請を理解し自立以外のかたへの介助・声かけを毎食行なっている。				歯みがきは利用者自身で行ってもらい、できないところを職員が介助して利用者の口腔内の状況を定期的に確認し、口腔内の汚れ等がないように清潔保持が継続できるよう努めている。また、訪問歯科を利用して利用者の口腔内の衛生に万全を期している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認し、必要があれば歯科往診の依頼をしている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科協会から資料をもらい参考にしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後と就寝前に毎日実施				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	自立の方には、声かけし歯磨き、技師の手入れをしていざと同時にスタッフも口腔内を確認するようにしている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	不具合があれば訪問歯科依頼を行なっている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	自立で排泄できるように誘導し失敗を減らせるようタイミングを気をつけ声かけている。				紙パンツと尿取りパッド使用者が多いが、排泄チェック表を活用して排泄のリズムを把握し、居室やリビングへの移動の時などを活用しながら、なるべくトイレで排泄してもらおう心がけている。病院退院後の利用者は紙おむつから紙パンツに改善する場合もあるなど、その時の状態に応じ職員間で一番良い支援方法を検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排泄パターンや便秘日数に留意している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録を利用し排泄パターンや形状を把握できるようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	時間で誘導し過剰なおむつ、紙パンツの使用にならないように配慮している。		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	バランスの良い食事や水分補給、適度な運動を心がけている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	失禁がトイレでの排泄か記録をとり、行動パターンから尿意を察知できるよう心がけている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	利用者の状態に合わせてその都度対応している。使用する物品についても相談、説明を行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	ショートミーティングの場などで意見交換を交わし時間帯などを考慮している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	献立には、野菜サラダや乳製品を使うようにしている。毎日体操も行なっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	その日の体調や本人が希望されなかったら翌日に入浴するようにしている。		◎	◎	週2回入浴を基本としているが、体調に合わせて臨機応変に入浴日の変更にも対応している。リフト浴の機械もあり、重度の利用者でも入浴できるようになっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	スタッフと会話したり歌を唄ったりリラックス出来る場所を作っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	利用者の個々に合った支援をしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	声かけの工夫、スタッフの性別や時間などを変えて本人が入浴したいと思える環境整備をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタル測定を行っている。体調や気分にも配慮している。				

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録や申し送りで把握している。	/	/	/	夜間は2時間ごとに訪室して利用者の睡眠状態を確認し、安心して眠ってもらうよう努めている。日中活動的に過ごしてもらい夜間のゆったりした睡眠に繋がるよう工夫している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中に体を動かしたり庭の散歩や野菜の手入れなど個々のリズムを整える工夫をしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	規則正しい生活をしていただくよう心がけている。夜間、日中とあわせて睡眠時間が足りていない場合には医師に相談している。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自室やリビングで休めるようにし自由に過ごしていただいている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	要望があれば電話や手紙の支援を行なっている。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	希望があれば支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族の依頼、了承があれば電話している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	返事を書いたり連絡が取れるように支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人の希望があればお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	不安に思っている利用者にはお金を預かっていることを説明し必要ときは一緒に買い物へ出かける。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	レジまで付き添っている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近所に馴染みの店を作り協力してもらっている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談し少額を所持している方もいる	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	訴えがあればその都度相談し対応している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理方法を説明し月に1度出納帳の写しと領収書を郵送し確認してもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	外出、通院など家族の協力が困難な場合は支援している。	/	◎	○	家族の協力を得て法事や墓参りを実現するなど、多様なニーズ柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	家族や近隣の顔見知りの方には事由に出入りしていただいている。	◎	◎	◎	玄関にはウエルカムボードにお知らせなどが書かれているほか、季節の花も飾られて親しみやすい雰囲気になっている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。)	○	季節の花を利用者と一緒に買い物に行き飾ったり、リビングでは誰とでもコミュニケーションが取れるよう席の配置を工夫している。	○	○	◎	共有の廊下には年間行われている様々な行事の写真が飾られ、見て回る利用者もいる。共有空間にはソファがあり、リビングで過ごす利用者は多い。掃除が行き届き清潔感が感じられる。リビングには季節の花を飾り、壁には利用者の手作りの作品を掲示してゆっくり落ち着いて過ごせるよう配慮している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	個々にあわせて明るさの調整をしている。掃除は毎日行なっている。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	玄関に花を飾ったりリビングから育てている野菜が眺められるようにしている。	/	/	/		◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	居室、リビングは自由に行き来している。また長いすを設置して気の合う利用者同士で会話を楽しむ空間を作っている。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	△	共有部から直接見えないようにしているが開けてしまう場合もある。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に使い慣れたものを持ち込んでいただくようにしている。	◎	/	◎	居室にはエアコンや電動ベッド、クローゼットが備わり、利用者自身の馴染みの物や家族の写真などが飾られるなど、居心地良く過ごせるようになっている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	出来る限り声かけ見守りを行い安全を確認しながら自立を心がけている。	/	/	○	居室がわかりやすいよう入口にはネームプレートを飾るなど、利用者が安心して自立した生活が送れるよう配慮している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	危険と思われるものを目の届かないようにし、不安を感じた時はこえかけするようにしている	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	写真や好きな本はすぐ手に取れるようにしている。編み物などもリビングに持ち運べるようにしている。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵が必要な場合は家族と職員で話し合ってから実行する	◎	◎	○	職員は玄関などに鍵をかけることの弊害について理解しており、日中玄関などの出入口は施錠されておらず、自由に出入りできるようになっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の意向を聞いたうえで事由の大切さを忘れないように努力することを話している。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	扉にベルをかけた外に出たい要望があれば状況に応じて出れるように支援している。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に情報収集をしている。また受診時には、ノートに記録し全員で把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	些細なことでも普段と違う変化があれば記録するようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	適宜相談できるようにしており医師の指示のもと、治療や入院対応を行なっている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所時に本人家族の希望にあわせて医療機関の受診をしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族、かかりつけ医で連絡を取り合い適切な医療を受けられるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	その都度情報を共有し合意を得ている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院毎に医療機関へ情報提供を行なっている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	定期的な情報収集をおこない、住み慣れた環境に戻れることを重視しながら話し合いに参加している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	定期的に日常生活の情報提供をして関係作りに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	介護職と看護職の連携ができています。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	常勤の看護職員と連絡をとりその指示にて各主治医に連絡をとるようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎朝バイタルチェックを行い体調変化に早期発見している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の説明書は薬と同じ場所で管理し確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	必ず2名のスタッフで確認して行なっている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	内服薬の変更の際はその状態を記録し医師へ報告、相談が出来るようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態変化があれば申し送りし服薬についてその都度医師に確認している。				

愛媛県グループホームすみれの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時に終末期の指針を説明し以後は、段階に応じて話し合っている。	/	/	/	年1回看取りに関する研修会を行って知識を得ている。利用者の家族に対して年2回終末期の意向に関するアンケートを実施し、家族の思いの変化に対しても見落とすことがないように注意を払っている。看取りの時期には、家族や主治医などの関係者を交えて話し合い、対応方針を共有するなど、体制は万全に整っている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	定期的に終末期の意向アンケートを行いその都度家族に再確認してもらい主治医と共有している。	◎	◎	/		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期に入った時に話し合いの場をもち対応について検討している。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	対応について説明し理解を得るようにしている。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	話し合いの場を設け検討や準備を行なっている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時に家族とコミュニケーションをとるようにしている	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	職場内研修で取り上げている。研修資料もファイリングしてある為、いつでも閲覧可能	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	手順を記したファイルを保管し見れるようにしている。	/	/	/		/
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	運営推進会議等の機会で保健師より注意喚起していただいている。	/	/	/		/
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	医療機関からの情報やインターネットなどを利用し樹夫報収集している。	/	/	/		/
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関先に消毒マスクを常設している。張り紙で感染予防の注意喚起をしている。	/	/	/		/

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族との連携を図り共に本人を支えていく関係を築けている。	/	/	/	行事予定などを家族に送り、参加してもらっている。月1回手紙に利用者の生活の様子や体調のことを書き、家族に報告している。事業所の設備のことや職員の異動等について、家族に伝わっていないため、家族の理解が得られるよう報告方法などを検討して欲しい。家族が来所した際には積極的に声をかけ、話を聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時に居心地欲過ごしていただけるように居室の環境整備をしたり取り組みの様子を伝えるようにしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	月一回の手紙にて行事予定の報告をしている。	○	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	月1回の手紙にて生活の様子などを伝えるようにしている。	/	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	来所された際になるべく家族の意向を聞き支援に取り入れられるようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	来所になるべく説明するようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	手紙や電話にて報告し協力を得られるようにしている。	/	x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	行事案内は、行なっているが、家族の参加は少ない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時及び面会時に説明している。新たに予想されるリスクが生じた場合は、その都度連絡説明している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族の希望や意見は、面会時や電話連絡した際などに聞くようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入所時に説明し途中内容変更があればその都度説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去となる事由を家族に理解していただきながら対応を行なっている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	重要事項説明書の説明時に理解を得ている。また、運営推進会議等への参加を促し説明の場を設けるようにしている。不参加であっても書面で同意を得るようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で認知症について話したり、近隣住民で認知症のことで困っていることなどがあれば相談や窓口の紹介などを行うようにしている。	/	○	/	事業所として地域の清掃活動や運動会などの行事に参加し、回覧板も確認するなど、地域とは良い関係が築けている。運営推進会議には民生委員などの地域関係者の参加も得られ、利用者が地域と積極的に関わりながら暮らしていけるよう取り組んでいる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	回覧板の確認や町内行事の参加、日頃の挨拶など入居者と一緒に出来ている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の消防士の方や防災士、民生委員のかたを中心に協力支援を得られている。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近所の方がお花や不要になった介護用品の差し入れなどに来ていただいている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	いつも挨拶を欠かさずに行なっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近隣の方にボランティアや行事を行なっていただく機会を作っている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	サービスの利用の希望があれば支援している。(散髪・手話)	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	行事参加の声かけや利用者とスーパーやパン屋と一緒に行き関係を築いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族には事前に書面で開催要項を送っている近隣の方も予定を配慮し参加いただいている。	/	◎	△	運営推進会議は、利用者や地域の関係者、市の職員などが参加しているが、家族の参加が少なく発言もあまりないため、今後は参加したくなるような議題にするなど、家族の参加が増える取組みが望まれる。外部評価の取組み状況については、参加者に理解してもらえるよう報告している。会議で出された参加者からの意見や提案を事業所サービスのさらなる運営に活かしており、その取組み状況を会議で報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	活動状況・計画・予定の報告をしている。、	/	/	/	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回提案、意見を伺い次回に組み込み状況を報告している。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	議題にあわせてメンバー、人数を考慮し日程についても調整している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	運営推進会議毎に前回の議事録を配布している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	定期的に理念について話し合いケアプラン作成時の基本的考えとしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	事業所内に掲示しているが取り上げて説明することはない。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	資格や経験年数、日々の業務姿勢などから内部研修予定を作成、また外部研修の具体的項目をあげて参加を促している。				身体拘束や感染症予防など、毎月何らかの研修を実施しており、代表者は職員のスキルアップには理解がある。半年に1回の人事考課制度を活用した面談を行ったり、ユニット長が日頃の悩みを聞くよう配慮したりするなど、職員が働きやすいストレスのない職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	資格取得への助言取得やスタッフの個性や能力に応じた研修の提案				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	ユニット長から職員のモチベーションや勤務態度等を聞き取り3年後、5年後などの話をするようにしている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	外部研修に参加することでの横のつながりや他事業所でのことを聞くことで刺激を受けてもらうことを考えている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	急な勤務変更なども気軽に対応することで、自分の時間も大切にもらっている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	声かけながら一人のスタッフに対応が偏らないようにフォローするようしており、入浴時に入居者の全身チェックを行い注意している。				年2回内部研修を行い、職員はいずれかの機会に参加できるようにしている。身体拘束適正化委員会を年4回実施して検討を重ねるなど、職員は不適切なケアを発見した際の対応方法について理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	常に話し合うことができる。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	発生時の対応を研修を通して学び周知している。入浴介助時には、複数のスタッフで関わり全身チェックを通して不自然な状態がないかを確認している。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	普段と違う様子が見えるようであれば勤務を変更するなどの提案を行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	3ヶ月に一度身体拘束適正化委員会、身体拘束の研修を年2回実施することで都度見直し、確認が出来る。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	3ヶ月に一度身体拘束適正化委員会、身体拘束の研修を年3回実施することで都度見直し、確認が出来る。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	原則身体拘束を行わないことを説明し要望があった際には、家族、職員と話し合うようにしている。				

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修を通して学んだり実際に活用されている方をモデルケースに話し合うことが出来ている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	見学時に本人や家族の状況を把握することで、各種制度の情報提供を行なっている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談内容を判断して家族の了承を得て包括支援センター等に事前相談を行い、家族等がその後相談に行きやすい状況を手助けしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変時、緊急時のマニュアルを作成している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	看護師に様々な対応方法を聞き実践している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書、ヒヤリハットに記入し職員で話し合い再発防止に取り組んでいる。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	一人ひとりのADLや認知レベルを日頃から話し合い取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルはいつでも見れるようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた際には、マニュアルに沿って対応するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	スタッフ間で話し合う時間を作り改善・経過・結果を全員に周知するようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	特に人が集まる際には、声を聞くようにしている。			○	利用者の意見は入浴時や日々の会話の中で話を聞き、改善につなげる努力をしている。家族からは面会に来た時に話を聞いている。管理者と職員は何でも言い合える関係性が築けており、毎月ユニット会議では、利用者への関わり方や事業所の運営面や設備などについて話し合うようになっている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に意見箱を設置している。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	状況に応じて各種窓口の情報提供を行なっている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ユニットで業務補佐をしたり食事を一緒にしたりしています。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	月に1回ユニット毎で会議を開催し意見を出し合っている。				

愛媛県グループホームすみれの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年2回実施している。				評価結果については運営推進会議で報告し、家族には事業所で閲覧できることを伝えている。今後は家族が事業所の運営面にも関心が持てるよう情報伝達ができる仕組みを構築し、モニターを依頼できるようになることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題の抽出を行いミーティング等で話し合っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	指摘のあった評価は目標を掲げ改善に向けて取り組むようにしている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で報告している。	△	◎	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議で取り組みや結果報告をしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	防災自主訓練を定期的に行なっている。				様々な災害を想定した訓練を実施し、避難訓練では屋外のテラスまで避難している。事業所内には避難経路がわかりやすいよう写真入りで掲示されており、防災に関する意識は高いが、一部の家族の理解が得られていないため、今後は地域とも合同の避難訓練を実施するなど、家族も安心できるよう利用者の安全確保に万全を期すことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	火災、地震、水害とテーマを変え全体で避難訓練を実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	避難経路は図上訓練で作成した周辺地図を活用。飲料水は、期限を確認しながら使用・補充している				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議で話し合ったり、近隣の方には訓練時に参加していただいている。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	なかなか出向くことが出来ない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	相談窓口としているが、積極的に地域へ還元していない。				地域活動には参加して相談できる体制を整え、地域包括支援センターでも相談できることを伝えているが、相談件数は増えていない。今後は事業所の相談支援をよりPRするなど、積極的な取組みが望まれる。地域の関係機関との協働のイベントの実施には至っていないため、今後は市や地域包括支援センターと連携して地域活動にも取り組み、地域のケア拠点として認識してもらえる事業所となることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議などで呼びかけている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	運営推進会議や夏祭りなどで開放している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	小学校の職場体験学習など依頼があれば積極的に応じている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や包括支援センター、町内会等からの案内については、極力参加するように努めている。			△	